むくのきだより　11月号



令和８年１１月２日　港区立赤羽幼稚園　園長　中村　美奈子

秋の深まりと共に　～季節・自然を感じる経験を～

園長　中村　美奈子

10月3日の運動会には、多くの保護者の皆様・地域の皆様にご来場いただきました。子供たちを温かく応援をしてくださったり、競技や体操に参加してくださったり、ありがとうございました。リハーサルとは違う本番の子供たちの様子を見て、「大好きなおうちの人に見てもらう」「一緒に体を動かす」という経験は、子供にとって安心や喜びにつながり、さらに自信や意欲につながっていくのだなと感じました。また、今回は年少ひまわり組、年中さくら組、年長ゆり組の3学年で行う初めての運動会でしたが、皆様のご協力のおかげでスムーズに進行することができました。感謝申し上げます。アンケートへのご協力もありがとうございました。次年度の運動会の運営に活かしてまいります。

朝、赤や黄色に染まった葉など秋のお便りを持って登園してくる子供たち。保育室では、どんぐりを使って遊ぶ姿も見られます。マテバシイやカシの木など、お休みの日に親子で拾いましたと持ってきてくださったものや先生たちが集めたどんぐりです。子供たちは、「これは太っちょのどんぐり。こっちはちっちゃいどんぐり。」と形を比べたり、「これ、すべすべなんだよ。」「こっちは、つやつや。」と手触りや見た様子を伝え合ったりしています。そして、「お母さんどんぐり、子供どんぐり。」と見立てて遊んだり、転がして遊んだりしています。10月29日には、赤羽小学校の「秋フェスタ」に招待され、1年生がどんぐりを使って作ったゲームや楽器などで遊んできました。とても楽しかったようで、幼稚園でもいろいろな遊びが広がっていきそうです。



幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「自然との関わり・生命尊重」では、「自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。」とあります。

スマートフォンやタブレットだけでなく体験型のイベントもバーチャルなものが増えています。刺激的で面白いものがたくさんあふれていますが、幼児期に直接体験することは、その後の成長に大切だと考えています。赤羽幼稚園では、季節感のある遊びを取り入れたり、子供たちと一緒に花や野菜を栽培したり、虫や生き物を育てたりしています。水やりを頑張った植物が花を咲かせたり実ったりしたときの喜び、世話をした生き物の成長や温もりに触れたときの命の感覚は、直接体験をしなければ感じることができません。時には、お世話を頑張ろうとする気持ちが空回りして、関わり方を間違えてしまうこともありますが、それも経験です。これからどうしたらよいか共に考えるようにしています。ご家庭でも、季節や自然をお子様と一緒に感じる体験をしてみてはいかがでしょうか。

